



中学生と一緒に水生生物調査を実施します ～水生生物の種類から河川の水質を判定します～

国土交通省では、河川に生息する水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するため、また環境問題への関心を高めるため、一般市民等の参加を得て全国水生生物調査を実施しています。

岩手河川国道事務所では、中津川において盛岡市立下小路中学校の生徒と共に次の日程で調査を実施します。

■場所

中津川「中ノ橋」下流 盛岡城跡公園側

■参加校及び日時

盛岡市立下小路中学校

平成28年8月3日（水） 9:30～11:30

※天候不良や河川の水位の状況により、中止する場合があります。

□全国水生生物調査とは

河川に生息するサワガニ、カワゲラ類等の水生生物の生息状況は、水質汚濁の影響を反映することから、それらの水生生物を指標として水質を判定することができます。

このような調査は、一般の方にもわかりやすく、高価な機材等を要しないことから誰でも簡単に参加できるという利点があります。

また、調査を通じて身近な自然に接する事により、環境問題への関心を高める良い機会となるため、国土交通省では昭和59年度から全国水生生物調査を行っています。

□調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、①全国各地に広く分布し、②分類が容易で、③水質に係る指標性が高い、29種を指標生物としています。・・・別添資料参照

河川で水生生物を採集し、指標生物の固定・分類を行い、Ⅰ（きれいな水）、Ⅱ（ややきれいな水）、Ⅲ（きたない水）、Ⅳ（とてもきたない水）の4階級で水質の状況を判定します。

〈発表記者会：岩手県政記者クラブ〉

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所
〒020-0066 岩手県盛岡市上田四丁目2-2

とやまひさのり
河川管理課長 外山久典（直通：019-624-3281）

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所 盛岡出張所
〒020-0862 岩手県盛岡市東仙北一丁目11-11

やえがし ひろお
盛岡出張所長 八重樫 博男（直通：019-636-0368）

【下小路中学校水生生物調査 位置図】

平成28年8月3日(水)



川の生きものを調べよう

水生生物による水質判定

I きれいな水

ナミウズムシ ×0
 石の表面にはりついていて、舟で泳ぐ。手・下葉部には外見が見えることがある。
 風船のどがった突起。また、舟に突起があるのも外見。外葉部 アメリカナウズムシ*

ヒラタカゴロウ類 ×2
 流れの速い石の表面にはりついている。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

カワガクラ類 ×2
 体ががんじょうな感じをする。石の下やすきまにいます。
 つめは2本 (カワゴロウは1本)、実物大

フユ類 ×5
 急流のせせりや石に吸着してはりついている。産卵をつくり、石が動く見えることもある。
 実物大

アミカ類 ×2.5
 急流のせせりや石に吸着してはりついている。産卵のせせりや石にはりついている。
 実物大

サワガニ ×3
 体色は茶色、茶色、青白のものがあるが、同じ種類である。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

ヘイトンボ ×2
 流れの速い石の下にひそんでいて、えらもあかそう。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

ヨコエビ類 ×2
 上流の石の下や水中にたまった落ち葉の側にいる。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

ナガレトビケラ類 ×3
 流れの速いところにいる。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

ヤマトビケラ類 ×3
 流れの少しゆるやかなところの石面に多い。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

タニガワカゴロウ類 ×1.5
 体はヒラタカゴロウ類に似ている。流れの速いところにいる。
 早たい体、尾は3本、実物大

I, II両方でみられる水生生物 (指標種ではない)

II ややきれいな水

カワナ類 ×0.5
 流れの少しゆるやかなところにいる。外葉部のコマチカフツボキは数mmと小さい。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

コオニヤンマ ×2
 流れが少しゆるやかなところにいる。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

ヒラタドロマシ類 ×2
 石の表面にはりついている。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

ゲンジボタル ×2
 流れが少しゆるやかなところにいる。カワナをえさとする。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

オオシマトビケラ ×2.5
 流れが少し速いところにいる。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

チラカゴロウ ×2
 流れのやや速いところにいる。
 早たい体、えら、尾は2本、実物大

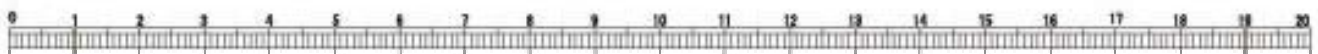
ヒゲナガカワトビケラ類 ×1.5
 流れの速い石の間に着きかたってえさを集める。体色は茶〜黒色。左右に大きな石をかけた産卵。
 早たい体、尾は3本、実物大

ニンギョウトビケラ類 ×1.5
 流れが少しゆるやかなところの石面にいる。
 早たい体、尾は3本、実物大

コガタシマトビケラ類 ×3
 産卵の産卵に多い。産卵がある。
 早たい体、尾は3本、実物大

ヘイケボタル ×10
 産卵の産卵に多い。産卵がある。
 早たい体、尾は3本、実物大

*のついている生物はよく似ていますが指標種(水質判定に使う水生生物)ではありません。



Ⅲ きたない水



ミズムシ
 種類のあるところではきれいな水にもいる

シマイシビル
 河川に多い種類がある
 岸に寄り寄りする
 船の舷にもいる

タニシ類
 河川のゆるやかなところにいる

ミズカマクリ
 川では川中の瀬の中ほどにいる

Ⅳ とてもきたない水



エラミミズ
 底質にえらが着く
 河川のゆるやかなところにいる

サカマキガイ
 多くの種類と違い、土着性
 河川のゆるやかなところにいる

ユスリカ類
 全長2cm (4本) 長さ1cm (2本) の口部はのえらが着く
 量でめられる強いユスリカはセスタユスリカやハイロユスリカが多い

チョウバエ類
 7mm 長さ2cm程度の
 毛糸、腹部背面にがたがたした部分 (キチン質) がある

アメリカザリガニ
 全アメリカ大陸の淡水域
 河川のゆるやかなところにいる

汽水域 (海水が混じっているところ)

Ⅱ ややきれいな水



イシマキガイ
 河川の中ほどにはりついている
 浅瀬にもいることもある

ヤマトシジミ
 河川の中ほどにいる
 浅瀬にはマシタシジミやオホシジミの
 タイワンシジミ*が多い

Ⅲ きたない水



イソコツブムシ類
 石の下にいる
 さわるとうくなる

ニホンドロソコビ
 瀬の上や中にいる
 瀬川の上・中流時にも淡水域のココエビ類がいる

*のついている名称はよく使いますが学名 (水質汚濁に際する水生生物) ではありません。

